

授業科目名	地域連携実習	担当教員	瓶内 栄作 荒木 利雄 富樫 佳織 夏 世明
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	4年 第2クォーター		
講義内容	<p>実り多い地域社会とは、住民・企業・行政がそれぞれのできることを行いながら協力していくことにより実現されるものである。この実習では、地域社会を構成する住民・企業・行政から本学へ寄せられた課題事項に対して、自ら考察し、課題解決策の検討を実施する。</p> <p>解決策の検討には、課題（ニーズ）認識、課題解決に向けての仮説立案、課題解決に使用できる人材/設備資源/アイデアなど皆さんや本学が有するもの（シーズ）の検討、ニーズとシーズのマッチング、目標及びアクションプランの策定などが必要になる。</p> <p>これまで学んだ内容を活かし、実現可能性の高い解決策を策定し、そのプロセスを通じてニーズやシーズを用いて事業創造するプロセスについて学ぶ。</p> <p>最終的には住民・企業・行政に対して、有効な課題解決策を提案するプレゼンテーションを実施する。</p>		
到達目標	<p>住民・企業・行政からの課題を適切に理解し、自らの言葉で説明できる。</p> <p>本学の有する有効なシーズについて、自らの言葉で説明できる。</p> <p>課題をもとに、イノベーションのアイデアを検討できる。</p> <p>事業に関する調査・分析を実施し、実現可能性のある企画立案ができる。</p> <p>実習先との円滑なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>課題解決策をレポートとして文書化できる。</p> <p>レポートについて、実習先関係者を交えプレゼンテーションを実施できる。</p>		
授業計画	<p>本実習は5日間×2週を実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備を行い、効率的な行動が求められる。</p> <p>1日目 学内でのオリエンテーション、現地でのブリーフィング、見学</p> <p>2日目 課題事項について、関係者ヒアリング</p> <p>3日目 課題事項についての情報収集、現地調査</p> <p>4日目 課題事項に向けての仮説立案</p> <p>5日目 1～4日目の振り返り</p> <p>6日目 課題解決に使用できるシーズ検討</p> <p>7日目 ニーズとシーズのマッチング 目標及びアクションプランのアイデア検討</p> <p>8日目 レポート資料作成(基本構想)</p>		

	<p>9日目 レポート資料作成(資料完成)</p> <p>10日目 プレゼンテーション資料作成</p> <p>学内での学習成果発表(プレゼンテーション実施)</p>
事前・事後 学習	<p>事前に対象先の現状及び特性について、WEB サイト等を閲覧し理解を深めておくことが望ましい。</p>
テキスト	<p>特になし</p>
参考文献	<p>『イシューからはじめよ』、安宅和人、英治出版、2010年</p> <p>『問題解決』、高田 貴久・岩澤 智之、英治出版、2014年</p> <p>『ロジカル・プレゼンテーション』、高田貴久、英治出版、2004年</p>
成績評価 の基準	<p>実習の態度(30%)、報告書ならびにプレゼンテーション資料(50%)、プレゼンテーション(20%)により評価する。</p>
履修上の注意 履修要件	<p>実習先の皆様は日常業務に大変忙しい中、皆さんの学びの場を提供するためにご協力いただいている。礼節をもって接し、失礼がないように心がけること。</p> <p>「地域創生実習」もしくは「地域イノベーション実習」を履修済みであることが望ましい。</p>
実践的教育	<p>経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、希望時に提出を求める志望理由を元に選考して履修者を決定する。</p>